



「そうだ！
自分は、
家族や大好きな人たちの
喜ぶ顔を見るのが
いちばん好きなんだ！」

…平林

お米農家 平林 悠

1981(昭和56)年、釧路市生まれ、東京都育ち。明治大学農学部農学科(緑地保全学研究室)を卒業後、大日本住友製薬で約3年半、アステラス製薬で約8年、ともに営業職として仙台・名古屋で勤務。2016(平成28)年、経営継承事業により鷹栖町に移住し、同町の米作農家のもとで就農への第一歩を踏み出す。2018年、農業者として自立。奥さまの純子さん(33)、お子さんの汰郎くん(6)、花純さん(4)、花笑さん(1)の5人暮らし。たかすたろファーム代表。鷹栖町移住相談アドバイザー。

ブランディング・コンサルタント 宿田 牧夫

1962(昭和37)年、牛飼いのせがれとして苫小牧市に生まれ、北海道豊浦町の山奥地で育つ。酪農学園短期大学卒。出版、広告の企画・制作、全国展開のレストランチェーン本部などを経て、現在はブランディングおよびCI(コーポレート・アイデンティティ)のコンサルタント。ゴッソ株式会社代表取締役社長。

「めっちゃめっちゃシンプル！」(笑)

…宿田

宿田 北海道の新規就農者で米作農家になる方は極めて稀。平林さんはなぜ、北海道という地を選び、米農家になることを目指したのですか？

宿田 めっちゃめっちゃシンプル！(笑)でもそんな気持ちになつた頃、奥さんやお子さんもいらつちやつたんですよ。安定した暮らしと将来をいつたん捨てて、未知の暮らしに進むワケですから、奥さまには当然反対されたでしょ。

平林 製薬会社で営業マンとして働いていた頃、仕事はすごく楽しかったですし、収入も安定していたので生活にはまったく困っていませんでした。そんな中、会社で研修を受けているときにふと、ところで自分はこの会社で何をしたいのか？そもそも自分は何が好きなんでしょう？そんなことがよぎりました。

平林 説得するのに2年かかりました。何度も必死にプレゼンをしました。そここうしているうちに妻が、やるなら早いほうがいいよ、と。歳とつてからだとかやり直しがきかなくなるから、と。

宿田 なるほど。わかります。

宿田 最高最強の奥さまですね！(笑)

平林 そうだ！自分は、家族や大好きな人たちの喜ぶ顔を見るのがいちばん好きなんだ！ということに気がつきました。そのためには…自分は製薬会社で働いているけれど薬が作れるわけではないし…でも自分は何かを作れることは苦手じゃない、むしろ好き…：そういうのは東京の実家で食べたあの北海道のお米「ゆめぴりか」、めっちゃめっちゃおいしかったなあ…。

平林 はい！(笑)今年田植えをしたうちの稲はぜんぶ、妻が育苗したものでなんですよ。これでおいしいお米を作れなかつたら、たいへんなことに…(笑)

宿田 それで、北海道でおいしいお米を作って、家族や大好きな人たちに食べさせて喜ぶ顔を見よう。

宿田 素敵なお米です。いちばん多く作っているのが「ゆめぴりか」で、あとは「なつぼし」と「ふっくりんこ」です。水田にできない畑1.2ヘクタールには蕎麦を作っています。

平林 はい！



平林家の友人とその家族と一緒に田植えを楽しんだ、今年5月19日、たかすたろファームのワンシーズン。子どもばかりが親も田んぼに入って大喜びする光景に、平林さんも大いに感動。自身のブログ、脱サラ農民一年生 (https://blogs.yahoo.co.jp/takasu_tarofarm/)にはそんな、新米農家の喜喜楽楽の日々が綴られている。ちなみに、平林さんが栽培している“子どもに食べさせたいお米”は、いまは結果的に特別栽培(化学肥料・農薬の使用量が慣行栽培の1/2以下)レベルだ。

SHUKUDA Makio
HIRABAYASHI Yu

宿田 作ったお米のほとんどを自流通させているんですね。就農1年目の去年から。

平林 はい、そうです。去年はあいにく不作の年でしたが、それでも想定通りの、ちゃんと暮らしていける収入があります。まったく問題ありません。

宿田 いったいどうして？

平林 自分で販売するということは、お米の保管や精米から販売に関わる面までのあらゆるコストとリスクを背負うことになりましたが、それに見合う価格を自分で設定することができず。うちの場合はいま、内地のスーパーと同じくらいの価格で直接販売しています。業者さんを通していませんので販売価格がそのまま売上になり、高利益につながっていくのです。

宿田 でも当然、販路の開拓が必要ですし、販路が開拓できたとしても想定通りの数量が売れるという保証はどこにもない。

平林 おっしゃるとおりです。ぼくは製薬会社で働いていたころの会社の仲間、お客さまだったお医者さんなどご縁のある皆さんに、米農家になった経緯、自分の子どもに食べ

させたいお米作りを目指しているということなどを伝えました。すると、うちに遊びに来てくれたり、うちのお米を食べてくれたり、そんな交流が自然と生まれました。1年間うちに、200人くらいの人が来てくれました。友達が友達を呼び、うちのお米のお客さんの数は1000人ほどになりました。

宿田 そんな人たち一人ひとりが、たかすたろファームの応援者となりファンとなり、お客さんとなっているんですね。

平林 そうなんです。そして、今ぼくたち家族がこんなに心地よい暮らしをさせてもらっている鷹栖町にもなにか恩返ししなきゃと思いついて、移住相談アドバイザーの仕事もさせてもらっています。

宿田 地元の農業者との連携も考えているのですか？

平林 はい。お米のおいしい鷹栖を全国に広めたいと考えています。魚沼のように。地元農家の方々とおいしいお米を作ってそれを全国へ。その結果として仲間と一緒に所得が増えつつあったら嬉しいですね。農業が楽しくて儲かる仕事になったら、子供の憧れる職業になると思うんです！